



印西市立小倉台小学校の 安全教育への取り組み

— 地域一体となった児童の安全意識向上を目指して

印西市立小倉台小学校
岩井 悠樹
赤石 勝

1 研究主題（安全教育）

地域の特性を踏まえ、学校と保護者・地域が一体となり、
児童の安全と安全意識を高める取り組み

2 主題設定の理由

本校の教育目標

- 「豊かな心を育み、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」

目指す学校像

夢と感謝にあふれた学校にするために

- あいさつと歌声があふれる学校
- 安全・安心で地域に開かれた学校
- 学ぶ環境が整い、うるおいのある学校

安全教育の目的

- 学校・保護者・地域が協働体制を組み、児童が安全に安心して学ぶ環境づくりと安全意識の向上を目指す
- 地域の特性と実態に合わせ、児童一人一人が自分の命は自分で守るという安全意識の向上を図る

本校の実態から

- **立地** 千葉ニュータウン地域の北西部
下総台地の強固な地盤
- **周辺環境** 千葉ニュータウン中央駅周辺
大型ショッピングセンターや図書館があり→利便性が高い
- **交通** 国道464号線や片側2車線道路が整備され、交通量が多い
- **規模** 児童数1,000人を超える
- **保護者** 都内で勤務する保護者が多い



安全上の課題

- 登下校時の安全確保

大勢の児童が登下校する際に、駅やショッピングセンターを利用する歩行者や自転車、自動車と通行が重なる

- 大規模災害発生時の保護者への円滑な引き渡し

鉄道利用の保護者が帰宅困難になる可能性

このことから、以下のことが必要になると考える

児童自らが安全に対する意識を高める

日常から学校・保護者・地域の協働体制を築く

3 研究仮説

- ・児童自らが安全に対する意識を高めるとともに、
日常から学校・保護者・地域の協働体制を築く

□ 仮説1

年間を通して学校・保護者・地域が安全教育や安全活動を行うことで、児童と教職員の安全意識が定着するだろう。

□ 仮説2

地域や児童の生活環境に即した安全教育を行うことで、児童が自ら安全意識を高めるだろう。

□ 仮説3

学校と保護者・地域が協働して活動することで、児童と教職員の安全意識が高まり、安全が確保できるだろう。

4 研究の内容・方法

(仮説 1)

- ① 安全点検の実施
- ② 学期始めと、毎週の登校指導と下校指導
- ③ スポット避難訓練の実施
- ④ 父母と教職員の会（父母教）による、登校見守りと放課後の地域巡回
- ⑤ Googleチャットを使った情報共有

(仮説 2)

- ⑥ 学校周辺の安全マップ作り
- ⑦ 安全委員会による児童の呼び掛け運動、安全ポスター作り
- ⑧ 避難訓練と引き渡し訓練の実施
- ⑨ 教職員の研修（エピペン研修会、救急救命法の講習会）

(仮説 3)

- ⑩ 防犯教室の実施
- ⑪ 交通安全教室
- ⑫ 安全点検日に行う下校指導
- ⑬ 地域ボランティアによる登校下校見守りや環境整備作業

5 研究の実際 1 児童の主体的な活動

(1) 学校周辺の安全マップ作り（第3学年の総合的な学習）

①学区を歩いて危険な場所を調査

②結果をマップにまとめ、
学年全体で発表会を実施する



情報共有と安全意識向上を図る



小倉台
地いさの安全
守り隊!

ま
ふ
間
学
習
友
間

OREGON
PORTLAND

(2) 安全委員会児童の呼び掛け運動・安全ポスター作り

- ①安全委員会の児童が校内で安全な歩行方法を呼びかけ
- ②昼休みの放送で登下校時の安全について繰り返し呼びかけ
- ③安全な学校生活ポスター作成も実施



研究の実際 2 学校・地域による連携

(1) 安全マニュアルの周知と安全点検の実施



安全点検簿

The image shows a safety inspection summary table (安全点検簿総括表) with a grid of checkboxes for various safety items. The table is organized into columns and rows, with checkboxes for different safety points. The table is open, showing the left page with a list of items and the right page with the grid.

項目	点検内容	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
1	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
2	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
3	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
4	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
5	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
6	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
7	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
8	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
9	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
10	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
11	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
12	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
13	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
14	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
15	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
16	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
17	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
18	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
19	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果
20	点検項目	点検結果	点検者	点検日	点検時間	点検場所	点検結果

安全点検簿総括表

(2) 交通安全教室 (第1学年と第3学年)

- ・ 交通安全指導員、市民活動推進課職員、教育委員会、警察職員を講師に招聘
- ・ 1年生: 歩道や横断歩道の通行方法の実技指導
- ・ 3年生: 自転車の点検方法やヘルメットのかぶり方、正しい乗り方の指導



(3) 学期始めと毎週の登下校指導

①学期始めと毎週月曜日に職員が登校指導

②指導内容

歩道（車道から遠い方）を歩く

横断歩道で左右確認し手を挙げて渡る

挨拶をする

③毎月の安全点検に合わせ、各学年で下校指導



（４）地域ボランティアによる登下校見守り

①地域住民が毎日、交通量の多い交差点の横断歩道で見守り活動
雨や雪の日も活動し、児童が安心して登下校できる

②学校敷地内の樹木剪定や周囲の緑道の草刈りなど、安全な学校環境維持にも貢献



研究の実際 3 保護者・情報共有・訓練

(1) 父母と教職員の会（父母教）による 登校見守り・放課後の地域巡回

- ①毎日、登校時の交通安全見守り活動
- ②毎日、放課後に地域巡回を実施





← P
AEON

安全ハロー
グッド
ハロー

(2) Googleチャットを使った情報共有

①緊急の不審者情報や天候悪化時

管理職から各担任へ迅速に配信

②担任はリアクションを返し、確実な情報共有

(3) スポット避難訓練

①毎月1回、昼休みや掃除の時間に実施

②地震の一次避難、不審者侵入時の対応、Jアラート

(4) 引き渡し訓練

- ①大規模災害時を想定
- ②引き渡し名簿を作成
- ③保護者が来られない場合の対応も確認
- ④都心勤務の保護者も多いため、平日に訓練を実施
- ⑤災害時の学校・保護者・地域の対応を検証



6 成果と課題【成果】多角的な連携による安全意識向上

○教職員による指導の質の向上

毎週の登校指導で児童の様子を把握し、具体的な指導へ繋がった。

父母教との情報共有も円滑になった。

○迅速な避難方法の習得

毎月の訓練により大規模校でも短時間で安全な避難方法を児童が身に付けた。

○地域との協同体制強化

地域特性に対し、教職員の下校指導、父母教の見回り、地域ボランティアの見守りにより、放課後の児童の安全面も協働的に対応できている。

○情報共有の迅速化

Googleチャット活用で地域からの情報や下校時の注意点が迅速かつ、確実に各担任に共有され、指導に繋がった。

○円滑な引き渡し体制

引き渡し訓練に多くの保護者が参加し協力的。

引き渡し名簿の活用により、保護者が来られない場合も明確に対応できる。

○児童の安全意識の向上

安全マップ作成や登下校時・放課後の見守りにより、

児童自身が非常時だけでなく

常日頃から安全意識を持ち、自分の命は自分で守るという意識が向上。

【課題】 今後の展望

●通学路の安全確認・指導の継続

児童数は減少傾向にあるが、今後も1,000人近くの児童数が続く見通し。

通学路の安全な登下校について、継続して確認や指導が必要。

●放課後・休日の安全確保

放課後や休日での児童の遊び方や遊ぶ場所について、地域からの意見を指導し活かしているが、今後も地域と協働的に安全を確保していく必要がある。

●児童への安全意識伝達アプローチの改善

学校・保護者・地域が連携していることを、より分かりやすく児童に伝えるアプローチを今後も考え、児童自身の安全意識の向上を図る。

ご清聴ありがとうございました。

